

2023年度

学校評価（自己評価）

目標

子どもが集団の中で、遊びを楽しみ、育ち合う。

計画

- 幼稚園生活の中で、子ども達一人ひとりの“個”の存在を大切にしながら、物事に向き合う力や、集団の中の一人としての意識を育てる。
- 生活する基礎を培い、生きる力を養う。
- 今ある環境を活かし、親育てをしながら、子どもの心を育む。

<今年度の取り組み>

2023年度は5月の連休明けからマスクの着用が解除になり、多くの子がマスクを外して過ごすようになる。コロナ前の状態に戻り、一気に感染対策という言葉が薄れていった。その一方でインフルなどの感染症が急激に広がり、学級閉鎖が多くなった。活動や行事に関してはコロナ前と同様に実施し、制限なく楽しむことができた。例年実施していた乗り物ごっこを止め、その分期間を設けないグループ製作を行い、好きな遊びが充実できるよう時間を保証した。敬老の日の集いや運動会、バザーなどの催しでは保護者以外の来園も可能にし、盛大に実施することができた。保護者にとっても来園する機会が増え、園で過ごす子ども達の様子を直接見ることができ安心感をもってもらえたことは良かった。ただ、新人職員3名が5月までに立て続けに辞める事態となり、そのうち2名が担任だったこともあり、2クラスの保護者には大変ご迷惑をおかけすることになった。急遽人材を確保しなければならなくなり、今までにない規模で人材紹介会社を利用する結果となった。この経験を経て新人指導について見直す機会を設け、今の時代に合う指導方法を取り入れていくようにした。卒園式は年長組全員がホールに集い、開催することができ子ども達にとっても、保護者にとっても良い式となった。

- 4月
 - ・勝浦 T の子育て相談開始。
 - ・園の ICT を「園児管理」から「パピーナ」に切り替えた。
 - ・入園式は新入園児全員で開催した。マスクの着用は子どもには求めず、保護者、教師には求めた。
 - ・全学年が春の遠足に行くことができた。
- 5月
 - ・こどもの日の集いは通常通り開催。
 - ・バス4台に降りし忘れ防止の人感センサーとアラームを装着すると共に、人数確認をダブルチェックするようにした（運行マニュアルを作成・実施する）
 - ・日曜参観は園庭で学年ごとに行った。
 - ・家庭訪問を実施。
 - ・お兄さん・お姉さん先生再開。
 - ・さつまいもの苗を植える。1・2歳児もプランターに野菜の苗を植え生長や収穫を楽しむことができた。
 - ・音楽あそびを隔週にし、遊びの時間を確保した。
- 6月
 - ・スカイパークに行った。
 - ・乗り物ごっこは行わず、期限のないグループ製作を実施した。
 - ・色水遊びやどろんこ遊び、プール遊びを楽しんだ。水に塩素を入れたためゴーグル着用を OK にした。
 - ・つくし、どんぐり、年少組ではお父さん・お母さん先生を再開。昼食も子どもと一緒に取る。

- 7月
 - ・プラネタリウムに行った。
 - ・年長組の一泊保育は昨年に引き続き園内に泊まり、昨年同様に「わっぱる」豊中市青少年自然の家で自然体験をすることができ良かった。園内に泊まることは、子ども達にとっては安心できるようで、発熱者も少なく、ぐっすり睡眠もとれているようであった。
 - ・誕生日会では全学年がホールに集まり、お母さん達の人形劇やコーラスの発表を見た（シェードやマスクなし）。
- 8月
 - ・子どもの手洗い場の蛇口が短く、流し台のふちに水が溜まるため、すべて長いものに交換した。
- 9月
 - ・暑い日が続いていたので、色水遊びやどろんこ遊びを継続して行う。
 - ・敬老の日の集いを行う。
 - ・入園説明会も対面で実施。
- 10月
 - ・新入園児の願書受付を行う。1号認定児の募集人数が15人少なく、当日受付に来られた方が30名で、抽選の結果キャンセル待ちとなった方は15名だった。
 - ・ナーサリー、満三歳児クラスの受付を行ったが、ナーサリーは水曜日クラスに数名のキャンセル待ちがあったが、月・木クラス、火・金クラスは少し空きがある状態。満三歳児クラスは5名ほどのキャンセル待ち。ここ数年、どのクラスもキャンセル待ちになっていたのだが、今回は2クラスのみとなり、少子化の影響が出てきているのかと心配である。しかし、3月にはどのクラスも満員。
 - ・交通安全教室に年長児が参加した。
 - ・運動会は10月末に万博公園のグラウンドで行った。
 - ・社会見学は行きも帰りも電車に乗って天王寺動物園に行った。
- 11月
 - ・バザーは在・卒関係のみで行い、盛大に開催することができた。飲食も可能とした。
 - ・秋の遠足は緑地公園へ歩いて行った。
 - ・お店屋さんごっこ、動物園ごっこは例年通り実施。
- 12月
 - ・クリスマス会は、第一部はあお・ももの部屋で人形劇、第二部はホールでディナーを食べる。
 - ・もちつきは、出入りの業者も呼び、お父さんにも手伝ってもらい、コロナ前の形で実施した。
- 1月
 - ・やきいも大会は例年通り実施。
 - ・こま回し大会も例年通り実施。
- 2月
 - ・節分は今年度も豆を使わずボールや新聞紙を丸めて投げ合う。また、食べる用の豆は提供せず、サラダなど加工して安全に食べられるようにした。
 - ・子ども会は今まで通り、2日に分け劇や合奏を観てもらった。保育室の会場はふじ組・さくら組。
- 3月
 - ・ひなまつり音楽会を開催。
 - ・お別れ遠足例年通り実施。万博公園で遊ぶ。
 - ・めいた、喉を詰まらせ永眠。
 - ・お別れ会は全園児が参加し、通常通り保護者に人形劇やコーラスを披露してもらう。
 - ・卒園式は年長全クラスで行うことができた。両親の参加を可能とした。

※退職者 … 川越（中途）、森田（中途）、松本、岸畑の4名

※卒園記念 … クリエイティブキューブ、図書コーナー改装費充当

評価項目

心身の健全な成長（あそび）	体を十分に動かしてあそびを楽しむことができる。	△
	好きな遊びを見つけて存分に楽しむことができる。	△
	園の職員全員で子どもを育てている。	△
	様々な活動に挑戦する中で、友達と刺激し合い達成感を味わうことができる。	△
	他学年との交流をもち、育ちに生かしている。	△
	自分に自信を持ち、友達を認めることができる	△
	思いを言葉で伝え合い、豊かな表現力を身に付けることができる。	△
	遊びを通して相手の気持ちに気づき折り合いをつけることができる。	△
	戸外での遊びを通してバランスの良いからだづくりができています。	△
	子ども達自ら遊びを工夫し、ルールや役割のある遊びを作り出す。	○
	じっくりと遊びの時間をもっている。	△
教育環境（自然）	園内の自然（樹木、果実、花、動物、虫、畑の野菜）を通して季節を感じるができる。	○
	いきものに接することで“命の大切さ”を知ることができる。	○
	畑の野菜を育てることで生長、収穫、食べ物のありがたみを知る。	○
	夏期等、あずかりの体制が整えられている。	△
	木の実や落ち葉などの自然物を使って遊ぶことができる。	△
	実際の自然に触れ、五感を使って感じてみる。	△
	教師自身が園庭の木々や草花を知り、子どもの興味関心の動機づけができる	△
	起伏のある広大な敷地で遊ぶことができる	○
	植物や動物を育て、その成長に興味関心をもつ。	○
保健衛生（食育）	季節の伝統料理を頂く。	○
	食に対する意欲をもち、マナーを身につける。	△
	旬の食材や自園で採れた野菜を味わえる。	○
	アレルギー対応ができています。	○
	専任の保健師がおり、怪我の対応（簡易処置）を適切に行える。	△
	健康に過ごすための季節ごとの注意点を看護師や教師から教えてもらう。	○
	食育を保護者にも考えていけるように栄養士との相談会を企画し家庭での食育に園が力を発揮する。	△
保護者との連携	家庭訪問を行い、子どもが育つ環境を理解している。	○
	子育て相談、カウンセリングなど、保護者を支える体制が整えられている。	○
	ホームページで日々の子どもの姿を知ってもらう。	△
	保護者に、より保育のねらいなどを理解してもらう機会（参観や講座、懇談、グレース会、行事など）をもつ。	△
	クラスや個人の様子などを、電話やお便り、メールで保護者に丁寧に伝えられるよう努めている。	△
	活動の過程を見ってもらう機会をもつ。	△
就学準備	グループ活動、リーダー活動を通して責任をもって行動することに気づく。	○
	文字、数字に興味をもつために、生活の中に工夫して取り入れていく。	△
	一つの目標にみんなで取り組み、達成感、満足感を味わう。	○
	一人ひとりの違いを認め共に育つようすすめていく。	○
	基本的な生活習慣を身に付ける。	○
	規範意識を身に付ける。	△
その他	卒園生へも園へ来ることのできる機会を与え、その後のつながりをもっていく。	○
	職員としての品位を保つよう心がけている。	△
	個々の教師としての向上心、同僚との意識の高め合いが感じられる。	△
	地域との関わりをもち、地域とも連携し、子育てを行っていく。	△

<反省と今後の課題>

- ・0・1歳児の園開放やナーサリーの1歳児クラスの新設など、子育て支援により力を入れていきたい。
- ・コロナ禍で育ってきた子ども達の身体の動かしが不十分だったからか、特に年長組に骨折など大きなケガをすることが後半続いた。日光を浴びてしっかり身体を動かし、食事の摂取や睡眠など生活習慣の大切さを改めて認識したい。
- ・子育て支援として、子育て相談をスタートしたが、より保護者のサポートを、一緒に子育てをしていけるように積極的に取り組む（ナーサリー・満三へもアピールする）。
- ・つくし・どんぐり組も含め異年齢との交流の機会を増やしていけるようカリキュラムの中にも積極的に取り入れていきたい。また、活動を増やすのではなく、日常生活の中で自然と縦の繋がりがもてる機会をもてるよう教師自身が意識して過ごすことが大切。
- ・年長組は夏野菜を育てるなどしているが、年少・年中組ももっと野菜の皮むきなどに参加し、食育につなげていきたい。
- ・時間枠での活動が多く、年長組は特にあそび込む時間を工夫する必要がある。
- ・6月～10月中旬ごろまでとても暑い期間が長くなっている。従来の考えではなく臨機応変に活動を見直していくべきだ。
- ・ウサギの飼育環境が悪いと保健所の指導が入り改善したが、ウサギの多頭飼育自体が現時点では難しく。飼育環境または飼育動物の見直しを考える必要がある。また、見るだけの飼育舎ではなく、触れ合える飼育舎にしておく必要がある。
- ・クラスだよりの作成、配付を見直し、保護者とこまめに連絡を取れるようパピーナを活用していきたい。
- ・受け身の遊びに慣れている子ども達が、自発的に遊びを楽しみ、工夫できる環境づくりが必要。
- ・人との関わりについては、コロナ2年間の影響により、自分の思いは伝えるが、人の思いに寄り添えないところ子どもにも保護者にもみられた。
- ・1・2歳の保護者は、食事面（マナー、食べっぷりなど）での悩みが多いので、栄養士さんと保護者が話のできる機会をつくりたい。
- ・年長児を対象に食栄養調査を実施したが、今後はその対象に関わらず、栄養士による相談会を実施し、食育の大切さや困り事を気軽に話し合えるようにしていきたい。
- ・自然を生かした遊びをもっと身近に取り入れたい。
- ・働き方改革が進み、働く時間が制限されるため、優先順位を考えながら仕事を進めていく必要がある。
- ・職員が70名を超えるようになり、連携がとても重要になる。報・連・相の必要性を再認識し、報連相のしやすい環境や雰囲気にすることが大切。